

神奈川県植物誌の改訂

勝山輝男 (当館学芸員)

植物相を調べる

ある地域の植物がどのような種類から成り立っているのかをその地域の植物相(フロラ)といいます。普通はその地域に生育している植物全種のリストであらわされます。その地域の植物相について記述した書物がその地域の植物誌です。神奈川県では1933年に神奈川県植物目録、1958年に神奈川県植物誌、そして1988年に神奈川県植物誌1988が刊行されました。一つの県で3回も植物誌が刊行されたのは極めて稀なことで、神奈川県は植物相研究の先進県といえます。植物誌は植物の戸籍簿のようなもので、その地域の植物について何か調べる際の基礎資料になります。例えば、昨年、当館で神奈川県レッドデータ生物調査報告書をまとめましたが、植物相が把握されているからこそ、どの種類が絶滅し、どの種類が減少しているのかを議論することができるのです。

神奈川県植物誌1988

県単位の植物誌の多くは全県1区で調査が行われ、それに過去の文献や標本からデータをひろいあげて作成されてきました。古い記録も最新の記録もすべて同一に扱われていますし、文献から拾いあげたものは本当にその植物が存在したのか確かめようがありません。植物目録の内容も和名、学名、産量が普通か稀か、稀なものは産地が列挙されている程度です。

神奈川県植物誌1988はそれまでの日



神奈川県新産のコケミズ

イラクサ科の小さな目立たない植物です。植物誌調査会の会員により、小田原市の海蔵寺の石段に生育しているのが見つかりました。

本の地方植物誌にはない新しいタイプの植物誌を目指して企画されました。県内全域を平均的に調査するために、市町村を中心とした108のメッシュに分け、それぞれのメッシュに生育する野生植物をすべて調べ上げ、分布図を作成しました。その際、後の検討訂正が可能のように、1種1メッシュについて最低1点は証拠標本を残しました。採集された標本は10万点を超え、当館、平塚市博物館、横須賀市自然博物館に保管されています。108個のメッシュをすべて専門家だけで調査するのは不可能です。そこで、新聞で呼びかけ、植物の好きなアマチュアの方々が約160名集まり、神奈川県植物誌調査会が結成されました。

調査は必ずしも順調なものではありませんでした。1979年から5年間の計画が1988年までの9年間かかってしまいました。費用も県からの調査費がつくものと期待していましたが、最後まで会員の手弁当となってしまいました。本の印刷費も半分に満たない50万円しかつかず、しかも販売代金から300万円返すという条件でした。しかたなく、1400ページにおよぶ版下をこれまた会員の手弁当で作成しました。

苦勞してできあがった植物誌は単なる植物リストではなく、見分けるための検索表、同定に役にたつ部分の図、県内の分布状況や同定の手助けとなる記事、県内の分布状況が一目でわかる分布図などが盛り込まれ、神奈川県植物のバイブルのようなものになりました。各方面から好評を得たことは植物誌の調査から刊行に携わった一人として大変誇りに思います。心残りだったのは、本来は内容の吟味にあてられるべき時間と労力が版下作成に充てられてしまい、記述の不統一や誤りが見られたことでした。

神奈川県植物誌2000計画

神奈川県植物誌1988は1979年から1988年の9年間の神奈川県植物相をあらわしていますが、神奈川県のように開発のさかんな県では10年もたつとずいぶん自然環境が変化してしまいます。そこで、10年後位には

改訂版が必要になります。今年度より神奈川県植物誌1988を発展的に改訂して神奈川県植物誌2000を刊行するための調査がスタートしました。分布図をより精密にすること、記述の統一と訂正、10年間の変化をとらえることが主な目標です。

これまでに採集された標本1点1点のデータとその採集地の座標はコンピュータのデータベースとして登録してきました。このうち当館に保管されている標本のデータベースは博物館情報システムの収蔵資料管理システムに発展しました。平塚市博物館では湘南植物誌作成に関連して標本のデータベース化がされました。横須賀市自然博物館や川崎市青少年科学館収蔵の標本もパソコンのデータベースに登録されました。厚木市博物館準備室でも標本のデータベース登録を行っています。

調査メッシュは前回と同様に市町村を基本とした108メッシュに分区したものを加えて、111メッシュとし、そこに生育する野生植物をすべて調べます。各調査メッシュ内で産地が限られているものについては前回の調査で確認された産地を再確認することになります。各メッシュ担当者にはそのメッシュで採集された標本リストが配布されました。10年前に記録された産地のどの位が残っているのでしょうか。

川崎市は川崎市青少年科学館、横浜市は横浜市こども植物園、三浦半島は横須賀市自然博物館、湘南は平塚市博物館、相模原市は相模原市立博物館、厚木市と愛川町は厚木市博物館準備室、その他の地域は当館がセンターとなり、証拠標本の登録と保管を行います。

メッシュ調査がされた県単位の植物誌は神奈川県植物誌1988だけです。しかも、10年後にその追跡調査がなされるといえるのはじめての試みです。新しい会員も増え、約250名の調査員が活動を始めました。まだ、順調に動きはじめたわけではありませんが、それでも神奈川県新産の植物が見出されたりしています。皆さんのなかで興味のある方、調査に参加されたい方がいましたら博物館の植物担当にご連絡ください。